

会議議事録

会議名	2020年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科・医療マネジメント科
開催日時	2020年7月30日(火) 14:00~16:00
場所	本校406教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理課長)、梅里良正(有識者委員)、直井智之(東大和病院事務部長)、山室靖(東京衛生病院医事課課長) (計4名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹(校長)、村山由美(医療秘書科学科長兼医師事務技術専攻科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科学科長兼診療情報管理専攻科学科長)、江崎侑子(診療情報管理専攻科教員)、宮下明久(事務局長)、(計6名)</p> <p>③ 事務局：松本晋圭(計1名)</p> <p style="text-align: right;">(合計11名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：資料1：2019年度第2回医療事務分野教育課程編成委員会議事録案、資料2-1：2019年度学科運営計画の年度末点検報告、資料2-2：2019年度第2回委員会以降の主な経過報告、資料2-3：2020年度校務分掌、資料2-4：2020年度クラス担任一覧、資料2-5：2019年度就職状況報告、資料2-6：2020年度「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール例、資料2-7：2020年度オンライン授業に関する報告、資料3：2020年度重点目標と達成するための計画・方法、資料4：2020年度教員研修計画・実績、資料5：2020年度学科運営計画、資料6：2021年度カリキュラム(案)</p> <p>② 本日配付：2020年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿</p> <p>③ 印刷物資料：2020年度講義要項、2020年度学生生活ガイド、2020年度Challenge就職活動ノート、2021年度SOKKI SCHOOL GUIDE</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認</p> <p>事務局より、当日配付資料に基づき今年度委員の紹介が行われ、新たに委員となった梅里委員より自己紹介があった。本校委員の中では、三宅委員が本年度から医療マネジメント科学科長及び診療情報管理専攻科の学科長となったとの報告があった。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、新型コロナウイルス感染症が予断を許さない状況が続く中、本校においても卒業式、入学式の中止を余儀なくされた。4月に急遽オンライン授業の準備を始め、5月の連休明けからは全学科で双方向のオンライン授業を開始した。6月にはオンライン授業に加えて少人数クラス、分散登校により対面授業を段階的に実施し、7月から一部科目のオンラインは並行しながら通常登校による授業を始めた。校舎を使用</p>

することの安全性については、感染防止対策の専門家の先生にお墨付きを得ている。

医療事務実習は中止となり、代替授業を実施するほか、希望者のみを対象に、1週間程度の医療事務体験の機会を提供すべく調整しているところである。在学生の多くはウイズコロナの時代の中で医療機関等に就職していくことになる。感染防止対策の正しい知識を持ち、それぞれの仕事の現場において活躍してほしいと願っている。

医療事務分野の次年度の学生募集については、既存学科の大規模な再編を行うこととなった。医療事務の仕事の高度化、変化に対応し、引き続き教育の充実を図っていききたい。委員の皆様には、専門家の視点からの貴重なご意見、カリキュラム等へのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局松本）

前回議事録（資料1）について、修正事項がないことを確認し、ホームページにて公開することが確認、了承された。

4. 2019年度第2回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 医療事務分野各学科の2019年度学科運営の度末点検報告（説明者：村山学科長、三宅学科長）

資料2-1に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 2019年度第2回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長）

資料2-2～2-7に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2020年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

資料3に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2020年度教員研修計画・実績（説明者：三宅学科長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 2020年度の教育活動と学科運営、計画等について（説明者：村山学科長、三宅学科長）

資料5に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。説明、意見交換の詳細は別紙のとおり。

8. 2021年度生カリキュラム編成等について（説明者：村山学科長、三宅学科長）

資料6に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。説明、意見交換の詳細は別紙のとおり。

9. 次回日程、その他

事務局より、本委員会は年2回の開催で次回は2月を予定している。秋に日程調整を行う旨の事務連絡が行われ、閉会した。

別紙

2020 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2019 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 医療事務分野各学科の 2019 年度学科運営の年度末点検報告（資料 2-1）

◎医療秘書科・医師事務技術専攻科

○村山学科長より、資料 2-1 に基づき以下の報告が行われた。

- ①前年度の本委員会でもいただいた意見を反映させて、専門知識を総括する位置づけの「カルテ読解」を 2 年生の後期に共通科目として配置し、組織の中で働くには柔軟性が必要との意見を反映し、1 年の後期に「メディカルホスピタリティ」を設けて進めてきた。いずれも今年度検証していきたい。
- ②検定結果については、おおむね好調で想定どおりの結果となった。
- ③就職指導については、キャリアサポートセンターと連携し、プログラムを大幅に見直した。自身のメンタルヘルス、契約・税金等の労働関連知識に加えて、外見を自分らしく整えることを盛り込んだ内容とした。今年度の就職活動、インターンの状況を見て検証を続けていきたい。
- ④退学者は一定数出てしまうが、他部署と連携しながら対応してきた。

◎医療マネジメント科・診療情報管理専攻科

○三宅学科長より、資料 2-1 に基づき以下の報告が行われた。

①退学者について

- （医療マネジメント科）退学者が少なく、医療マネジメント科は学校目標の 3.5%以下を達成した。
- （診療情報管理専攻科）退学者ゼロ（0%）となった。

②検定試験について

- （医療マネジメント科）診療報酬請求事務能力検定試験の結果が過去最高の合格率となった。
- （診療情報管理専攻科）診療情報管理士認定試験の結果が過去最高の合格率となった。

- ・両学科とも 2018 年度までに科目の改定等の強化をした結果がついてきたものと思う。
 - ・診療情報管理士の資格に対して興味が増えたのか、今年度の 2 年生は就職希望者よりも専攻科進学希望者が多くなり例年と逆転した。
- ③就職は、就職希望者に対してほぼ 100%を達成した。担当の先生方の努力のたまものだと思っている。

(2) 2019 年度第 2 回委員会以降の主な経過

○宮下事務局長より資料 2-2～2-7 に基づき以下の報告が行われた。

1. 2020 年度の組織運営関連

- ・2020 年度校務分掌（資料 2-3 参照）
- ・2020 年度クラス担任一覧（資料 2-4 参照）
- ・2020 年度行事予定表（2020 年度学生生活ガイド P4～5 参照）
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入学式、オリエンテーション、検定試験の中止、夏休みは 8 月中旬に 1 週間だけになるなど、大幅に変わっている。
- ・2020 年度オープンキャンパススケジュール（SOKKI SCHOOL GUIDE 2021 P77～78 参照）
※4、5 月はオンラインで行った。6 月以降は、参加人数等の制限をかけた形で今のところ日程どおり実施している。

2. 学校関係者評価関連

- ・3月に予定していた2019年度第3回学校関係者評価委員会は書面確認とした。
- ・7月に2020年度第1回学校関係者評価委員会を開催した。

3. 2019年度学生の状況関連

(1) 退学者数

(2) 就職活動結果（資料2-5参照）

○2020年度キャリアデザインスケジュール（資料2-6参照）

- ・1年生はオンラインでの実施が多くなっているが、2年次は就職活動の指導がメインになるので、感染対策を行いながら具体的な指導を実施している。

(3) 2019年度各専攻科及び他科への進学状況

- ・診療情報管理専攻科への進学者は前年より増えている。

○オンライン授業に関する報告（資料2-7参照）

- ・①資料配信型、②双方向オンライン型、③動画配信オンデマンド型の3つの形態の中で、①を中心に②、③を組み合わせて実施している。

- ・学生の環境（パソコンがない、あったとしても型が古く動作が遅い、家族がテレワークで使っている、Wi-Fi環境がない、データ通信量に制限がある、プリンターがない）に配慮する形で、スマートフォンでの参加を前提にした。通信環境が整わない学生にはパソコン、Wi-Fiルータを無償貸与した。

- ・使用ツール、導入に関する経過は資料記載のとおり。

5. 2020年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料3）

○橋本校長より資料3に基づき以下の説明が行われた。

①T P Cの育成と強化

- ・急遽開始したオンライン授業とアクティブラーニングをどう生かすかを重点とした。

②学び直し等の教育プログラムの開発

- ・専門課程以外の社会人の学び直しの教育（夜間・休日・オンライン）を進める。

③ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・視野を広げて学園づくりを進めていくために、教職員の意識改革、情報・状況の共有を図る。

6. 2020年度教員研修計画・実績（資料4）

○三宅学科長より、資料4に基づき以下の説明が行われた。

- ・新型コロナの拡大に伴い、集合型研修、今年度中の各種学会が全部中止になっている。
- ・校内研修として、本校非常勤教員により、新型コロナの最新事情について講演（動画配信あり）をしていただいた。系列の埼玉女子短期大学の教職員、授業内で担任教員立ち会いのもと学生にも動画を公開した。

6. 2020年度の教育活動と学科運営、計画等について

◎医療秘書科

○村山学科長より、資料5に基づき以下の説明が行われた。

- ・今年度は2019年度に大幅に行った改編の検証期間と捉えている。

- ・求人の時期の早期化に合わせて、可能なものはカリキュラムの前倒しを図った。
- ・DPC 対象業務の増加に合わせて、「DPC 基礎」を2年次前期の共通科目に、「DPC 演習」を2年次後期の医療事務コースに配置した。いずれも現役の業界講師に依頼した。
- ・応用力を身につけること、進路先の選択肢を広げることを目的に、「レセプトチェック」を共通科目とした。
- ・「キャリアデザイン」は昨年度大幅に改編したものを継承していく。
- ・オンライン授業は、有効な科目は何かを学びながら今後も進めていきたい。
- ・「病院事務実習」は、医療秘書科・医療マネジメント科とも中止として、代替授業について研究し、進めている。

◎医療マネジメント科・診療情報管理専攻科

○三宅学科長より、資料5に基づき以下の説明が行われた。

- ・2021年度に学科再編成の予定があるので、2019年度と大きく変えていない。多少の科目の整理・統合、適切な時期への配置のし直しを行った。
- ・診療情報管理専攻科も同様である。2021年の改編に備えて必要な見直しを行い、診療情報管理士受験資格の要件となる「DPC 実践」を外部の先生にお願いした。

(意見交換①)

- ・オンライン授業を4月にスタートしたのは、かなり頑張ったと思う。効果の面で心配されていると思うが、逆に充実する面も出てくると思う。
- ・病院関係の就職は国の補正予算も付き、後半は改善するのではないか。実習の受入れの準備もしているので、1カ月単位ぐらいで確認していただくとよいと思う。
- ・来年度の授業に関してDPCの実務者を入れて強化したり、本年度は成績もよいので、この委員会の中での話が役立ったのであればありがたい。
- ・実習は受ける方向で調整しているが、例年とは全く違ったやり方と環境になる。就職指導に当たっては病院が戸惑っている環境にあることを理解して進めるとよいと思う。
- ・面接をオンラインに切り替えている。今までは近隣の県だけだったが、距離に関係なく応募ができるので、オンラインで何かが変わってくるように感じている。
- ・今年度入ってきた学生は積極的で、雰囲気が変わってきた印象がある。
- ・志望学科の推移や専攻決定の傾向などをフォローして、学生の希望の変化を分析されているか。
→資料請求者の数、オープンキャンパスの参加者数、出願数、入学者数の把握はできている。
- ・四年制大学も含めてどういう教育をしているところで学生数が増えているか、学生の人気はどう動いているかを分析されるとよいのではないか。
- ・就職先でどういう仕事に就いているか、学生のときにどんな教育があったらよかったかなどの情報をフィードバックしてもらい仕組みがあるとよい。例えば同窓会など、卒業生の意見を集められる仕組みをシステムとしてつくっておくとよい。
→卒業と同時に全員が校友会に入る。卒業生支援講座に参加した人から情報をもらうことはできている。在学時にメールアドレスを付与しているので、卒業後の活用の仕組みをつくっていききたいと考えている。
- ・職員の教育研修は、録画をしておいて、必ず100%受けてもらう形にするとよい。
- ・教員一人一人の受けた教育、取得資格、力を伸ばしたい方向、年度の目標、達成度などを資料としてまとめた管理ファイルを作っておくと有効だと思う。

- ・カリキュラムに入れる候補に挙げたが、入れなかったものはあるか。
→RPA（作業をロボットに置き換える）に関わる人材育成の提案があり、科目創設の可能性を検討したが、本校の医療事務を中心とした学習とそれになってしまうことと、需要がそこまであるかという議論になり、2021年度のカリキュラムの中には入れないことにした。
- ・他の教育機関の状況も含めて可能性のあるものをどんどん挙げて、採用するもの、不採用の理由を明らかにしておくと思える。

7. 2021年度生カリキュラム編成等について（資料6）

◎医療秘書科

○村山学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・「DPC・コーディング基礎」を2年次前期に配置した。現役の業界の講師にお願いし、医事課で必要な知識の情報を中心に進める。
- ・「病院受付実務Ⅲ」は、ⅠとⅡに統合した。学ぶ時間数は変わっていない。対人能力を高めるという学科目標達成のため、1年次前期から進めていく。
- ・選択科目が配置されるのは2年の後期になる。内定をもらおうと2年後期の授業に身が入らない学生がいるので、最後の11月検定受験までを目標と意識させ検定取得率を上げていきたい。
- ・2年生の前・後期の専門科目はリニューアルされている。
 - ・医療コンピュータ事務コースは医療事務とレセプトの知識を深めていくことを目標にしている。
 - ・調剤薬局事務コースは、薬局という名前を入れて、職場や仕事をよりイメージしやすくした。
 - ・医師事務コースは業界のニーズが高く、希望者が多い。
 - ・医療コンシェルジュコースは新規で、ホスピタルコンシェルジュ検定を目指す「ホスピタルコンシェルジュⅠ、Ⅱ」と健康管理能力検定を目指す「予防医学」を配置した。

◎医療事務IT科

○三宅学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・ITに長けた人材を医事課にも送り出したいという思いから、「医療マネジメント科」を「医療事務IT科」と名称変更した。医療マネジメント科のカリキュラムがベースになっている。
- ・パソコン関係の科目を強化していきたいので、足りないところは増やし、科目の統合により一連で学べるような形にしている。
- ・基礎知識と実技演習に分けて、理論は検定前に集中して行うようにした。
- ・「コーディング演習」は2年前期から1年後期に配置し直した。2年前期から医事課の事務実習があるので、そこまである程度の知識を習得してもらうのが狙いである。病院と同じようなコーディングを最初から学ばせる形にした。
- ・「医療情報基礎知識」を創設した。医療情報技師の認定試験を診療情報管理科の3年次に受けるが、その前段階の「医療情報基礎知識検定試験」を受けるために2年次に配置した。
- ・「情報セキュリティ概論」で、ITでは必須となるセキュリティの理論をきちんと教えていきたい。
- ・「電子カルテ応用演習」は、今までは医師事務をイメージした電子カルテの入力作業だったが、いろいろな職種で連携ができるようにしていきたい。
- ・医療事務IT科は2年制だが、診療情報管理科に編入できるため、診療情報管理科の1年次と同じメニューにしている。

◎診療情報管理科

○三宅学科長より、資料 6 に基づき以下の説明が行われた。

- ・診療情報管理科は、今までの医療マネジメント科 1 年次、2 年次に診療情報管理専攻科のメニューをプラスして、細かく直したものである。
- ・パソコン系の科目は名称、学習時期の適切な場所への配置換えを行った。全体としては増やさないことと、継続して学べるように配慮している。
- ・「コーディング演習」は I、II、III とステップアップしていけるメニューになっている。
- ・診療情報管理士の試験対策として臨床医学系を強化した。
- ・「がん登録演習 I、II」は、在学中にがん登録実務初級者認定試験を取得した状態で卒業させるために配置した。
- ・「医療情報基礎知識 A、B」を配置した。
- ・「医療情報技師概論」を設けたが、負荷が大きいため、あくまで診療情報管理士資格取得を優先するため、選択科目にしている。
- ・「マイクロソフトオフィス応用演習 I、II」を強化している。
- ・DPC は基礎と応用に分け、学習内容を分かりやすくした。
- ・診療情報管理士認定試験の専門領域の対策を強化している。

◎診療情報管理専攻科

○三宅学科長より、資料 6 に基づき以下の説明が行われた。

- ・適切な時期への配置換え、名称の変更を行った。

(意見交換②)

- ・大きな病院はコンシェルジュ系が必要になってきているので、マッチしていると思う。
- ・自分のタスクと資格をはっきりさせて、強化していることがよくわかった。
- ・診療情報管理専攻科は、一つ飛び抜けたプログラムで、大学院生みたいなイメージか。
→従来の診療情報管理士の教育は、医療マネジメント科 2 年生プラス 1 年制の診療情報管理専攻科 (2+1) だったが、近年、診療情報管理専攻科に進む学生が増えていることと診療情報管理士の合格率が高いことから、3 年間の一貫した教育にする。一方、高等教育の無償化を考えた場合、2+1 ではプラス 1 が無償化の対象にならない。一貫して一つの学科にすると 3 年間無償化の対象になるという要素も加味して変更した。それに伴い、従来の医療マネジメント科については IT で特化し、医療秘書科については接遇や対人対応を強化していく。来年度は医療マネジメント科の 2 年生がいるので診療情報管理専攻科は並行して残るが、2022 年度にはなくなる。さらに、学び直しの人たちを対象とした 1 年制の医療事務の学科も考えている。3 年、2 年、1 年という形で医療事務系の学科のラインナップを増やしていこうということである。
- ・病院の経営、企画、財務的なものまで分かるカリキュラムはどの辺で教えるのか。
→医療事務 IT 科の中に「簿記」と「病院会計」を設けている。
診療情報管理科では、3 年次の「病院マネジメント I、II」が、医療法、医療制度、財務諸表などを学び、総合的な理解を深める科目になっている。
- ・そのカリキュラムで十分だったかどうかをこれから分析して、強弱をつけるところかと思う。
- ・就職するときに病院というものの枠が見えていたほうがよいと思うので、施設基準、厚生局の立入り調査、医療法 25 条の立入り調査、さらには医師や看護師の使命、歴史、風土などの大きな話もプログラムの中にあるとよいと思う。
→昨年度、全体を俯瞰して見る力が必要だという意見をいただいたが、そのように捉えていきたい。

医療事務IT科の中にある「病院管理と診療報酬制度」という科目が、病院の組織やシステムなど経営の観点から見る内容になっている。

診療情報管理科の3年次に「病院マネジメント」という科目をつくり、ディスカッションを通して学べるようになっている。

- ・施設基準が漏れていたり、満たしているのに知らなくて損害が出ることもあるので、その辺をしっかり学び、コーディネートできるような人がいると助かる。
- ・コンピュータ関係は、アクセスまでできると仕事の範囲が増えると思う。
- ・医療事務IT科を卒業して就職した後に診療情報管理士を取りたいときは、最初から学ばなければいけないのか。それとも取得した単位を持っていけるのか。病院としては、持っていない人に診療情報管理士を取ってくれと勧めている。

→入って1年間の間に考えて、2年次に進学するときに診療情報管理士を取りたい場合は3年制に行ってもらおう。勤めた後の場合は、別途社会人とか学び直しの教育の中で考えられるかと思うが、その辺は具体化していない。

管理士試験とがん登録初級者のアプリを作り、卒業後、再受験して取りたいというときには格安で提供している。

- ・医療事務IT科は、病院に行ったときにどういう仕事に就くことを想定してカリキュラムを作っているのか。

→基本的には医事課に入ってもらいたい。パソコンやITに長けていて、病院の経営や患者サービスの向上に役立つようなデータ抽出、管理、提案などができる医療事務員をイメージしている。

- ・病院のシステム部門で力が発揮できるというところまでは考えていないのか。

→まだ考えていないが、いずれ選択科目として設けていければと思っている。

- ・病院のDPCデータを使った分析のシステムがいろいろあるが、それについての教育も入っているのか。

→ソフトが高額なので、病院実習の際に見せてもらうようお願いしている。

- ・病院機能評価はカリキュラムに入っているか。技能評価の項目一つ一つが病院のあるべき姿を理解するのに有効なので、使い方によってはよい教育ツールになると思う。

→病院機能評価については診療情報管理士のカリキュラム内に入っているが、どこまで理解しているかは不十分な部分もある。

(オンライン授業について)

- ・先ほどオンラインで面接をされているという話を伺ったが、本校もこれからオンライン面接を受ける学生がいるので、指導に当たって、今までとは違うところとか対策があれば教えてほしい。

→環境が整っていないと時間どおりに接続できないと印象が悪い。事前準備をして、一度テストをしてもらえるように問い合わせをしたほうがよいと思う。

- ・オンラインのほうがコミュニケーションを取りやすいのか、Googleフォームを使うと、質問がたくさん返ってくる。個人面談も30分ぐらいかかってしまうこともある。

- ・Googleフォームはほぼ全員使える状態になっている。学生とのコミュニケーションをとるツールとしてもよいと思っている。

- ・今、一般企業は在宅勤務の比率を高めると言われているが、病院の仕事の中で在宅の可能性のあるものは何か。

- 総務などではもうやっている。時差出勤も、休暇の取得も奨励している。
- 訪問すると感染のリスクがあるので、ケアマネの部隊はやっていた。
- 研修会はほとんどウェブ開催になった。評価をする際には直接話さないと分からないという意見も出ている。
- 課題や動画を配信するだけより、双方向でやりとりがあるほうが満足度が高い。
- 動画配信をしたものを見た上でディスカッションする反転授業もオンラインで普及してきているので、一方的に講義するという授業はなくなっていくと思う。

以上